

2026年6月11日

2025年度事業報告書

(一社) 全日本テコンドー協会

I 当協会の組織

1. 役員及び正会員（法人法上の社員）

(1) 正会員及び正・準加盟団体（2026年3月31日時点）

①正加盟団体及び正会員

1	宮城県	推薦なし
2	山形県	菅原 章文
3	栃木県	間宮 大輔
4	埼玉県	鳥越 恒一
5	千葉県	金 容星
6	東京都	友野 寿美
7	神奈川県	姜 炫淳
8	山梨県	小泉 秀一
9	長野県	金原 貴将
10	岐阜県	福富 秀幸
11	愛知県	山田 啓悟
12	京都府	川端 徳久
13	大阪府	※
14	奈良県	阪口 朗
15	兵庫県	門野 真
16	香川県	中谷 信彦
17	福岡県	※
18	佐賀県	牟田 靖文
19	長崎県	瀬尾 健一
20	熊本県	西村 紀幸
21	大分県	長野 修士

大阪府については、2026年4月18日に、山下博将氏が正会員に就任した。

福岡県については、正会員推薦委員会の推薦が得られず未選任である。

②準加盟団体

（北海道協会）

岩手県協会

茨城県協会

新潟県協会

石川県協会

滋賀県協会
三重県協会
愛媛県協会

(2) 理事・監事

1	会長	川原 貴
2	副会長	田辺 陽子
3	専務理事	岸 郁子
4	常務理事	長野 修士
5	常務理事	山本 衛
6	理事	太田 渉子
7	理事	片上 千恵
8	理事	鳥越 恒一
9	理事	藤原 清香
10	理事	山田 啓悟
11	理事	吉田 成
12	監事	戸谷 由布子

2. 専門委員会 2026 年 3 月末日時点で HP 掲載のとおり

3. 会員及び加盟団体

(1) 会員の状況

個人会員 1 6 6 6 名 (2026 年 3 月末日現在) (昨年度 1813 名、一昨年度 1799 名)
(うちヴァーチャル会員 10 名)

審判登録 56 名 (同上) (昨年度 6 9 名)

登録道場等 158

登録指導者 205 名

(2) 加盟団体・準加盟団体

加盟団体 2 1 団体

準加盟団体 7 団体

(1. (1) のとおり)

II 正会員総会・理事会の開催状況

1. 正会員総会

(1) 2025 年 6 月 29 日

- 第1号議案 2024年度事業報告及び決算の承認について
- 第2号議案 会費の承認について（ヴァーチャル会員）
- 第3号議案 役員の選任について
- 第4号議案 正会員の選任について

2. 理事会等

- 1 4月24日 経営会議
 - 1 暴力、暴言、ハラスメント等スポーツマンシップに反する行為の排除・根絶について
 - 2 日本代表（候補）選手の選考について
 - ・ Rhine-Ruhr 2025 FISU World University Games
 - ・ 世界カデット選手権
 - ・ アジアジュニア、アジアカデット選手権
 - 3 デフリンピック日本代表選手選考基準及び選考会の開催について
 - 4 SS 強化指定選手選考基準
- 2 5月22日 経営会議
 - 1 デフリンピック日本代表選手及びスタッフの承認
 選手：星野 萌（石岡道場／千葉県協会）
 スタッフ：有川 真弓（JOC 強化スタッフ）
 - 2 JSC アスリート助成の推薦について
 ユースアスリート助成：河合利亜斗・大新田桜
 パラアスリート助成：工藤俊介
 - 3 全日本ジュニア選手権の開催及び宿泊費の上限について
 - 4 愛知県名古屋アジア・アジアパラ競技大会の役員等の推薦と委員会の設置について
 アジア競技大会 スポーツマネージャー(SPM) 高木伸幸（委員長）
 テクニカルオペレーションマネージャー(TOM) 河 成得
 アジア・パラ競技大会 スポーツマネージャー 黄 郁綺
 テクニカルオペレーションマネージャー(TOM) 河 成得
 テクニカルオペレーションマネージャーの補助 平林 霞
 - 5 ヴァーチャル・テコンドージャパン オープン プレ大会の実施について（兵庫）
 - 6 会員規程の改定（ヴァーチャル会員）
 - 7 専門委員会委員の追加等
 強化委員会：委員長 阪口朗
 委員 長野修士、金井洋、中川貴哉、山田勇磨、森頭、金容星
 作田武俊、高木伸幸
 普及戦略委員会：委員 萩原鳳羽
 - 8 スポンサー契約の更新（城北信用金庫）
 - 9 大会の後援について（長崎）

- 3 6月11日・12日 理事会
- 1 2024年度決算及び事業報告について
 - 2 2025年度補正予算について
 - 3 専門委員会委員等謝金対象者が理事である場合の取り扱いについて
 - 4 東アジアユース選考基準と選考会の開催について（追認）
 - 5 プムセセミナー宿泊費上限について
 - 6 暴言・ハラスメント等の根絶について
（以下、6月12日）
 - 7 競技会の後援について（ヨンソンオープン）
 - 8 次期役員、正会員の候補者について
 - 9 正会員総会の招集について
日時 6月29日(日) 14時～
2024年事業報告及び決算の承認について
バーチャル会員会費について
役員・正会員の選任
 - 10 愛知名古屋選手選考の方針について
 - 11 U-スポーツコンソーシアム加盟について
- 4 7月18日 経営会議
- 1 学生、社会人、マスターズ選手権大会の開催について
 - 2 アジアユース 日本代表選手の選考について
 - 3 第1回ヴァーチャル・テコンドージャパン オープン大会（千葉）の実施について
 - 4 オープン大会の後援（追認）について（大阪府）
 - 5 ATU 選挙の投票について
ATU の会長、副会長その他の選挙について、投票内容を審議し決定しました。
 - 6 専門委員会規程の改正について（ヴァーチャル委員会の記載の追加）
 - 7 全日本ジュニアのエントリーミスの救済要望について
 - 8 スポンサー提案について
- 5 8月22日 経営会議
- 1 プムセ選考基準
 - ・アジア競技大会（プムセ）代表候補選考基準
 - ・世界プムセ等国際大会派遣選考基準
 - ・2026年度プムセ NF 強化指定選手
 - ・2026年度パラプムセ NF 強化指定選手
 - 2 全日本プムセ選手権大会の開催について
 - 3 第2回、第3回ヴァーチャル・テコンドージャパン オープン大会の実施について

第2回 安曇野（信州チャレンジカップ会場）

第3回 大阪（リンクステコンドーフェスティバル会場）

- 6 9月26日 理事会
- 1 2026年アジア選手権 代表選考基準の承認について
 - 2 2026年シニアキョルギ強化指定選手 選考基準の承認について
 - 3 オープン大会の後援について
 - 4 第4回ヴァーチャル・テコンドージャパン オープン大会（阿蘇）の実施について
 - 5 WT 選挙について
- 7 10月24日 経営会議
- 1 アジアパラユースの代表及びスタッフの選考基準及び選考について
 - 2 ガバナンスコード 自己説明の公表について
 - 3 オープン大会の後援について（ライツオープン）
 - 4 全日本選手権の宿泊費上限（12000円）について
 - 5 読売スポーツ賞 オリ・パラの推薦について
- 8 11月14日 経営会議
- 1 パラの各選考基準の承認
 - ・愛知名古屋アジアパラ競技会 日本代表候補・スタッフ候補 選考基準
 - ・2026年度強化指定選手選考基準、育成選手選考基準
 - 2 全日本選手権の開催について
 - 3 専門委員会委員の追加選任について（アスリート委員会）
 - 4 世界選手権における案件について（第1次公表）
- 9 12月19日 理事会
- 1 10月及び11月の経営会議審議事項の追認
 - 2 デフリンピック報告と、報奨金について
 - 3 アジア競技大会 キョルギ 日本代表選考基準について
 - 4 アジア競技大会 プムセ 日本代表選考会開催について
 - 5 少年少女選抜選手権大会の開催について
 - 6 2026年ジュニア・カデット強化指定選手選考基準
 - 7 アジア競技大会テストイベントに関する下記のじこう
 - ・OVRシステムの契約について（契約相手方 株式会社SDH）
 - ・スタッフの交通費・宿泊費について
 - 8 World マスターズゲーム、テコンドー競技の要項の承認

- 9 ヴァーチャルテコンドーSeries FINAL の実施について
10 規程の改定について
11 AJTA バッチの寄付について
- 10 1 月 23 日 理事会
1 アジア競技大会キョルギ日本代表候補選手選考試合の実施について（実施要項の承認）
2 2026 年シニアキョルギ強化指定選手の選考について
3 世界ジュニア選手権日本代表選考基準について
4 愛知名古屋アジア・アジアパラ競技大会 NTO の推薦について
5 2026 年度 JOC 専任コーチの推薦について
6 JSAA（日本スポーツ仲裁機構） 「調停」の申立てについての対応
7 アジアパラ選手選考について
- 11 2 月 20 日 経営会議
1 世界ジュニア選手権 日本代表選手選考について
2 愛知名古屋アジア競技大会 プムセ日本代表候補選考について
3 2026 年度パラ専任コーチの推薦について
4 愛知名古屋アジアパラ競技大会 テクニカルオペレーションマネージャーの推薦について
5 脳震盪ルールについて
6 令和 8 年度スポーツ振興基金助成事業（選手・指導者研さん活動助成）の推薦について（済）
- 12 3 月 27 日 理事会
1 1 月、2 月経営会議審議事項の追認
2 強化指定選手の選考について
 ジュニアカデット・プムセ
3 プムセ国際大会代表選手の選考について
4 JOC 強化指定選手の選考、強化スタッフの選考
5 JOC 専任コーチの追加について（資料なし）
6 世界ジュニア選手権への派遣について（資料なし）
7 専門委員会委員の選任について
8 強化本部の体制変更について
9 愛知名古屋アジアパラ競技大会 NTO の追加推薦について
10 東西地区大会の開催について
11 2026 年度事業計画及び予算の承認
12 正会員総会の招集について

Ⅲ 実施した事業

【2025 年度振り返り】

1. 2024 年度に策定した中長期計画を実行の年度であった。

専門委員会委員長会議が定着し、各委員会が、より機動的かつ精力的に活動するようになった反面、マンパワー不足などの課題がより深刻なものとして実感されるようになった。

具体的には、競技会運営はよりブラッシュアップされた形で運営できるようになり、学生選手権においては新人戦の開催が叶った。脳震盪ルールの周知もできた。各大会における学連ブースの設置も定着してきている。

一方で、審判員不足、スタッフ不足が依然として大きな課題である。

新規事業として、ヴァーチャル・テコンドーのシリーズ化と FINAL が今年度より実施された。参加人数はまだまだ増加を期待したいところであるが、大会の盛り上がり、特に FINAL の盛り上がりはヴァーチャル・テコンドーの将来性を感じさせるものであった。

マーケティングについて、現状スポンサーの維持はできているが、新規スポンサー獲得ができない中、強化によるメダル獲得と注目度アップに加えて、ヴァーチャル・テコンドーの活性化による普及とスポンサー獲得を期待したい。

広報については、マンパワー不足の改善が急務である。

昇段に関しては、国技院との連携、昇段審査制度の変化への対応が必要な状態が続いている。

【専門委員会委員長会議】

1. 2025 年 4 月 28 日 20 時～
2. 同 5 月 19 日 20 時～
3. 同 6 月 4 日 20 時～
4. 同 7 月 16 日 20 時～
5. 同 8 月 27 日 20 時～
6. 同 10 月 8 日 20 時～
7. 同 11 月 17 日 20 時～
8. 同 12 月 8 日 20 時～
9. 2026 年 1 月 14 日 20 時～
10. 同 2 月 25 日 20 時～

1. 強化事業（強化本部・強化委員会）

(1) 会議の実施

1) 強化委員会

(1) 第1回目 日時:2025 年 4 月 5 日

内容:審議・報告事項

1. 2025 年度年間事業計画(方針)
2. 各種遠征について

3. 世界カデット・アジアジュニア／カデット・ユニバ遠征について
- (2) 第2回目 日時:2025年5月28日
内容:審議・報告事項
1. ユニバ代表選考と事前合宿について
- (3) 第3回目 日時:2025年6月5日
内容:審議・報告事項
1. 7～9月遠征スケジュールについて
- (4) 第4回目 日時:2025年8月13日
内容:審議・報告事項
1. 事務局との話し合い
2. 下半期の計画
3. 国内合宿について
- (5) 第5回目 日時:2025年9月14日
内容:審議・報告事項
1. 強化内の連絡体制について
2. JOC専任コーチとしての責務と意識改革について
3. 国内合宿について
4. 下半期の計画と変更点について
5. 2026年6月アジア選手権大会について
→・選考について、・帯同コーチ及びトレーナーについて
- (6) 第6回目 日時:2025年12月02日
内容:審議・報告事項
1. アジア競技大会選考基準について
2. アジア競技大会選考会について
3. アジア競技大会及びアジア選手権大会の帯同者について
4. 次世代強化基準、SS次世代基準について
5. 次世代の減量ガイドラインについて
6. 次世代事業の追加について(継続審議)
7. 選手強化事業の追加について(継続審議)
8. 2026年3月実施 シニア次世代合同合宿について
9. JOC強化スタッフの推薦について
10. NF評価アンケートについて
- (7) 第7回目 日時:2025年12月21日
内容:審議・報告事項
1. 2026世界ジュニア選考基準について
2. 2026世界ジュニア事前合宿について
3. シニアカナダUS遠征対象者について
4. 2026年度NTC利用スケジュールについて
5. その他(金井HPAD、阪口強化委員長より)
- (8) 第8回目 日時 2026年1月18日

内容・審議・報告事項

1. 次世代強化方針について
2. くじ助成金活用方法について
3. 次年度専任コーチメンバーについて
4. 所属先指導者へ強化合宿内容の共有方法について
5. アジア競技大会選考合宿について

(2) 強化活動

シニア・ジュニアのキョルギ・プムセの活動は、JOC 令和7年度選手強化 NF 事業補助金を受けて、パラの活動は、JPC 令和7年度競技力向上事業補助金を受けて実施した。

1) オリキョルギ (シニア)

日程	事業名	スタッフ	選手	合計
2025 年 04 月 05 日～04 月 06 日	Rhine-Ruhr 2025 FISU World University Games 選考合宿	15	18	33
2025 年 04 月 21 日～04 月 25 日	WT President's Cup - Asia 派遣	2	8	10
2025 年 06 月 04 日～06 月 09 日	2025SS 国内合宿①	2	3	5
2025 年 07 月 06 日～07 月 12 日	Rhine-Ruhr 2025 FISU World University Games 事前合宿	2	6	8
2025 年 08 月 21 日～08 月 25 日	2025SS 国内合宿②	2	3	5
2025 年 08 月 24 日～09 月 01 日	Muju Taekwondowon 2025 World Taekwondo Grand Prix Challenge 派遣	2	4	6
2025 年 09 月 13 日～09 月 15 日	2025 シニア国内強化合宿①	5	23	28
2025 年 10 月 14 日～10 月 21 日	Wuxi 2025 World Taekwondo Championships 事前合宿	3	8	11
2025 年 10 月 21 日～10 月 31 日	Wuxi 2025 World Taekwondo Championships 派遣	3	8	11
2025 年 11 月 05 日～11 月 08 日	2025SS 国内合宿③	2	3	5
2025 年 11 月 08 日～11 月 18 日	2025 World Taekwondo Women's Open Championships 派遣	2	3	5
2025 年 11 月 18 日～11 月 26 日	Bangkok 2025 World Taekwondo Grand Prix Challenge 派遣	2	3	5
2026 年 01 月 19 日～01 月 24 日	2025SS 国内合宿④	2	3	5
2026 年 02 月 24 日～03 月 10 日	カナダ・US 海外遠征	2	7	9
2026 年 03 月 07 日～03 月 09 日	2025 シニア国内強化合宿②	3	23	26

2) キョルギ・ジュニアカデット

日程	事業名	スタッフ	選手	合計
2025 年 5 月 2 日～2025 年 5 月 7 日	Fujairah 2025 World Taekwondo Cadet Championships 直前合宿	3	10	13
2025 年 5 月 7 日～2025 年 5 月 16 日	Fujairah 2025 World Taekwondo Cadet Championships 派遣	2	10	12
2025 年 7 月 5 日～2025 年 7 月 6 日	3rd Asian Youth Games Bahrain 2025 キョルギ日本代表選考合宿	14	17	31
2025 年 7 月 18 日～2025 年 7 月 24 日	第 13 回アジアジュニア/第 6 回アジアカデット直前合宿	6	20	26

2025 年 7 月 22 日～2025 年 7 月 30 日	第 13 回アジアジュニア/第 6 回アジアカデット派遣	3	20	23
2025 年 9 月 13 日～2025 年 9 月 15 日	2025 次世代国内強化合宿①	4	16	20
2025 年 10 月 15 日～2025 年 10 月 20 日	アジアユース直前合宿	3	6	9
2025 年 10 月 20 日～2025 年 10 月 29 日	第 3 回アジアユースゲームズ派遣	3	6	9
2025 年 12 月 21 日～2025 年 12 月 23 日	2025 次世代国内強化合宿②	5	17	22
2026 年 2 月 24 日～2026 年 3 月 2 日	カナダオープン遠征	1	4	5
2026 年 3 月 3 日～2026 年 3 月 10 日	2025 次世代国内強化合宿③	6	41	47

3) プムセ

日程	事業名	スタッフ	選手	合計
2025 年 5 月 16 日（金）～5 月 19 日（月）	2025 プムセ国内強化合宿①／ 韓国コーチトレーニング① （コーチ力強化事業 3 名招聘）	5	26	31
2025 年 10 月 3 日（金）～10 月 6 日（月）	2025 プムセ国内強化合宿②／ 韓国コーチトレーニング② （コーチ力強化事業 5 名招聘）	5	26	31
2025 年 12 月 25 日（木）～12 月 30 日（火）	韓国トレーニング（韓国・大田市）	2	5	7
2026 年 1 月 9 日（金）～1 月 12 日（月）	2025 プムセ国内強化合宿③／ 韓国コーチトレーニング③ （コーチ力強化事業 4 名招聘）	4	31	35

4) パラキョルギ・パラ次世代（合同開催）

日程	事業名	スタッフ	選手	合計
2025 年 4 月 19 日～4 月 20 日(1 泊 2 日)	第 1 回強化合宿	6	7	12
2025 年 6 月 27 日～6 月 30 日(3 泊 4 日)	第 2 回強化合宿	8	7	15
2025 年 9 月 10 日～9 月 15 日(5 泊 6 日)	第 3 回強化合宿	8	8	16
2025 年 11 月 21 日～11 月 24 日(3 泊 4 日)	第 4 回強化合宿	8	5	13
2026 年 2 月 20 日～2 月 23 日（3 泊 4 日）	第 5 回強化合宿	10	8	18
2026 年 3 月 13 日～3 月 16 日（3 泊 4 日）	第 6 回強化合宿	10	8	18

5) コーチ力強化

① コーチ派遣

NF 強化委員として国際大会に帯同し、プムセの強豪国、選手のレベル及び日本選手との差や違いを確認する他、各国監督、コーチから有意義な情報（評点のポイント・主流や練習方法、選手情報等）を得ることを目的とする。

WT President's Cup - Asia コーチ派遣(2025 年 4 月 21 日～4 月 25 日) 1 名

Rhine-Ruhr2025 FISU WorldUniversityGames コーチ派遣(2025 年 7 月 12 日～7 月 25 日)
1 名

Wuxi 2025 World Taekwondo Championships コーチ派遣(2025 年 10 月 21 日～10 月 31 日)
1 名

2025 World Taekwondo Women's Open Championships コーチ派遣
(2025 年 11 月 08 日～11 月 19 日) 1 名

カナダ・US 海外遠征コーチ派遣 (2026 年 2 月 24 日～3 月 10 日) 1 名

Fujairah 2025 World Taekwondo Cadet Championships コーチ派遣
(2025 年 5 月 7 日～5 月 16 日) 1 名

第 13 回アジアジュニア/第 6 回アジアカデットコーチ派遣
(2025 年 7 月 24 日～7 月 30 日) 1 名

(3) 国際大会派遣

1) キョルギ

実施した事業：WT President's Cup - Asia 派遣

期間：2025 年 04 月 21 日～04 月 25 日

スタッフ数：2 人

参加者数：8 人

実施内容：大会派遣

実施した事業：Muju Taekwondowon 2025 World Taekwondo Grand Prix Challenge 派遣

期間：2025 年 08 月 24 日～09 月 01 日

スタッフ数：2 人

参加者数：4 人

実施内容：大会派遣

実施した事業：Wuxi 2025 World Taekwondo Championships 派遣

期間：2025 年 10 月 21 日～10 月 31 日

スタッフ数：2 人

参加者数：8 人

実施内容：大会派遣

実施した事業：2025 World Taekwondo Women's Open Championships 派遣

期間：2025 年 11 月 08 日～11 月 18 日

スタッフ数：2 人

参加者数：3 人

実施内容：大会派遣

岡本留佳-46kg 級 5 位, 岡崎陽向-46kg 級 5 位

実施した事業：Bangkok 2025 World Taekwondo Grand Prix Challenge 派遣

期間：2025 年 11 月 18 日～11 月 26 日

スタッフ数：2 人

参加者数： 3 人
実施内容：大会派遣

実施した事業：カナダ・US 海外遠征
期間：2026 年 02 月 24 日～03 月 10 日
スタッフ数：2 人
参加者数： 7 人

実施内容：大会派遣(カナダオープン)
-53 kg級 加藤柚帆 2 位(銀メダル)
-63 kg級 前田秀隆 2 位(銀メダル)
-57 kg級 西田茉央 3 位(銅メダル)
-68 kg級 鶴岡 里 3 位(銅メダル)
-74 kg級 加藤貴士 3 位(銅メダル)

実施内容：大会派遣(US オープン)
-53 kg級 加藤柚帆 3 位(銅メダル)
-63 kg級 前田秀隆 3 位(銅メダル)
-74 kg級 加藤貴士 3 位(銅メダル)

実施した事業：Fujairah 2025 World Taekwondo Cadet Championships 派遣
期間：2025 年 05 月 07 日～05 月 16 日
スタッフ数：3 人
参加者数：10 人
実施内容：大会派遣

カデット男子-57 kg級 渡辺煌牙 5 位

実施した事業：第 13 回アジアジュニア/第 6 回アジアカデット派遣
期間：2025 年 07 月 22 日～07 月 30 日
スタッフ数：3 人
参加者数： 20 人
実施内容：大会派遣

ジュニア女子-49 kg級 大新田桜 3 位(銅メダル)
ジュニア女子-52 kg級 飛田琴菜 5 位
カデット男子-57 kg級 渡辺煌牙 3 位(銅メダル)
カデット女子-44 kg級 大野富結 5 位
カデット女子-47 kg級 児玉梨華 5 位

実施した事業：第 3 回アジアユースゲームズ派遣
期間：2025 年 10 月 20 日～10 月 29 日
スタッフ数：3 人

参加者数： 6 人

実施内容：大会派遣

ジュニア男子-55 kg級 野谷昊雅 5 位

実施した事業：カナダオープン遠征

期間：2026 年 02 月 24 日～03 月 02 日

スタッフ数：1 人

参加者数： 4 人

実施内容：大会派遣

ジュニア男子-48 kg級 河合利亜斗 1 位(金メダル)

ジュニア女子-46 kg級 芹澤美佳 1 位(金メダル)

2) プムセ

1 実施した事業：2025 春川国際オープン大会（プムセ）

期間：2025 年 7 月 15 日（火）～7 月 20 日（日）

スタッフ数：3 人

参加者数：14 人

実施内容：大会派遣

<G2 イベント>

・女子 U40 規定 原田 奈緒 2 位

<オープンイベント>

・女子カデット規定 内村杏奈 3 位

・男子カデット規定 汐崎然 2 位、黒澤広 3 位、内村翼 2 回戦敗退ベスト 8

・女子ジュニア規定 布崎姫真 2 回戦敗退、佐藤妃那子 3 位、井上愛希 1 位

・男子ジュニア規定 佐藤響 3 位、織田理央 1 回戦敗退

・女子 U50 規定 田島宏美 3 位

・男子 U50 規定 堤大介 1 回戦敗退

・男子 U60 規定 石原範和 2 位

・女子 060 女子 内田みち子 2 位

・カデットペア （内村杏奈、内村翼）1 位

・ジュニアペア （井上愛希、佐藤響）1 位

・U50 ペア （田島宏美、堤大介）2 位

2 実施した事業：第 8 回アジアジュニアプムセ・第 6 回アジアカデットプムセ選手権大会

期間：2025 年 7 月 25 日（金）～8 月 1 日（金）

スタッフ数：3 人

参加者数：5 人

実施内容：大会派遣

・ジュニア男子規定 佐藤 響 9/17 位

・ジュニア女子規定 佐藤 妃那子 5/19 位

- ・ジュニア男子フリースタイル 南陽翔 予選敗退 11/11 位
- ・カデット男子規定 汐崎然 5/13 位
- ・カデット女子規定 大野富結 5/16 位

3 実施した事業：2025 オーストラリア遠征（プムセ）

期間：2025 年 8 月 12 日（火）～8 月 18 日（月）

スタッフ数：1 人

参加者数：2 人

実施内容：大会派遣

■WT president Cup

丹羽結子 フリースタイル女子 017 7/8 位、個人規定 女子 U30 3/34 位

信濃明梨 個人規定 女子 U30 ベスト 16/34

■オーストラリアオープン

丹羽結子 U30 女子規定 ベスト 16/33、フリースタイル 017 5/21 位

信濃明梨 個人規定 女子 U30 ベスト 16/33

3) パラ

実施した事業：WT President's Cup Asia (0422)

期間：2025 年 4 月 22 日～4 月 25 日 3 泊 4 日

スタッフ数：4 人

参加者数：3 人

実施内容：大会派遣

【結果】

◎【-58 kg級】5 位 田中光哉、9 位 阿渡健太

【-63 kg級】9 位 原田涼平

【-70 kg級】3 位 工藤俊介

実施した事業：World Para Taekwondo Open Challenge (0709)

期間：2025 年 7 月 8 日～12 日 (4 泊 5 日)

スタッフ数：3 人

参加者数：6 人（内次世代 1 名）

実施内容：大会派遣

【結果】

◎【-58 kg級】9 位 田中光哉、阿渡健太、市川青空

【-63 kg級】17 位 原田涼平

【-70 kg級】5 位 工藤俊介

【女子-52kg 級】9 位 大津恵美子

実施した事業：Asia Para Taekwondo Championships (0727)

期間：2023 年 7 月 28 月～8 月 3 日

スタッフ数：3 人

参加者数：6 人（内次世代 1 名）

実施内容：大会派遣

【結果】

◎【-58 kg級】5 位 田中光哉、阿渡健太、9 位 市川青空

【-63 kg級】5 位 原田涼平

【-70 kg級】5 位 工藤俊介

【-80 kg級】5 位 重元夏

実施した事業：オーストラリア遠征（0812）※2 大会

期間：2025 年 8 月 11 日～8 月 17 日（6 泊 7 日）

スタッフ数：3 人

参加者数：5 人（内 1 名次世代）

実施内容：大会派遣

■President's Cup - Oceania

【結果】

◎【-58 kg級】2 位 田中光哉、5 位 阿渡健太、市川青空

【-63 kg級】5 位 原田涼平

【-70 kg級】1 位 工藤俊介

■Australian Open

【結果】

◎【-58 kg級】2 位 田中光哉、5 位 阿渡健太、市川青空

【-63 kg級】5 位 原田涼平

【-70 kg級】1 位 工藤俊介

実施した事業：ドバイアジアユースパラ 2026

期間：2025 年 12 月 8 日～12 月 15 日（7 泊 8 日）

スタッフ数：2 人

参加者数：2 人

実施内容：大会派遣

【結果】

◎【-80 kg級】3 位 重元 夏

【女子-47 kg級】5 位 市川 桃

（5）J-star 事業（パラ）

JSC のジャパン・ライジング・スター・プロジェクトにつき、JPC から委託を受けて 2021 年度から参加している。

今年度は、9 期生 1 名については、それぞれミーティングを行った上で、1 回の合宿とクラス分けを実施した。

1 合宿・クラス分け

日程	事業名	スタッフ	選手	合計
2025 年 12 月 7 日	第 1 回中央合宿(9 期生)	2	1	3
2026 年 1 月 17 日	大会研修・クラシフィケーション	2	1	3

(6) 総括・その他

キョルギ部門においては、今年度の主要国際大会は「世界選手権大会」「ワールドユニバーシティゲームズ」「世界女子オープン」の 3 大会の派遣を行なった。世界選手権は各国総力を上げて挑んでくる大会であり、大会期間も過去最長の 1 週間の長丁場となった。そのため、現地でのウエイトコントロール、ピーキングの調整を心掛け、それぞれの対象者の試合日から逆算してコンディショニングを行なった。

現地でのコンディショニングは本遠征前に NTC で事前合宿を行なってきており、基本的には筋刺激を入れたメニューを多く取り入れ、筋疲労がしっかり入った状態で現地入りした。

大会の結果は芳しくなかったが、日本のこれからを考えて良かった点とすると、現時点と目標の差に気付くことができた点、逆を言うと各国の成長スピードに間に合っていないと感じている。

ワールドユニバーシティゲームズは 6 階級出場したものの、最高成績がベスト 8 で目標としていたメダル獲得は達成できなかったが、5 位入賞を果たした。6 階級全 8 試合のうち、4 試合が 1 ラウンドを先取しており、先取できた試合は 4 試合中 3 試合が勝利に繋がっているため、強化してきた先行先取は必要であったと実感している。だが、先取して得点で勝っていても勝ちにこだわる余地ディフェンシブになり過ぎている傾向も現れており、ラウンド終盤で逆転されることもあったため、この部分は次の課題である。

世界女子オープンは前回大会と大きく違った点が、WT ランキングシステム上 1 年間の上限 40P 外の大会となり、今大会でのポイント獲得は WT ランキング上位に食い込むためにもアドバンテージとなる大会であった。メダル獲得までは届かなかったが、5 位入賞、R16 でもオープン大会金メダルクラスのポイントは獲得できているため成果はあった。特に今大会はロシア、中国が相当数の選手を派遣してきており、オープン大会の性質も持った本大会は各国上限数が設けられていないため、強豪国が多数トーナメントに出てきているなど世界選手権とは違ったハードな大会となった。メダル獲得には及ばなかった。これらの結果を深く受けとめ、2026 年のアジア競技大会のメダル獲得と 2028 年のロスオリンピック入賞に向けて、強化を行っていく所存である。

キョルギ部門(次世代)においては、今年度の公式国際大会は「世界カデット選手権大会」「アジアジュニア・カデット選手権大会」「アジアユース競技大会」の 3 大会に派遣を行なった。

アジアジュニア・カデット選手権大会では、各カテゴリー(ジュニア・カデット)にて銅メダルを 1 つずつ獲得することができ、ジュニア選手においてはカデット期からの育成強化の結果

が繋がったと言える。

カデット選手においては初出場初メダルと言う快挙であり、中重量級選手がメダル獲得出来た事は今後の日本テコンドー界の新たな兆しとなった。

2026 年度では「世界ジュニア選手権大会」「ユースオリンピック競技大会」の 2 大会が控えている。特にユースオリンピック競技大会においては、テコンドー界の歴史上まだ 1 名しか出場権を獲得したことがない為、新たな歴史の 1 ページを刻むべく更なる強化を行っていき、ロス・ブリスベン五輪へと繋げていきたい。

プムセ競技においては、限られた予算のなかでの工夫として、この 3 年あまり韓国から現役の国家代表クラスの選手や世界選手権大会での優勝経験、世界選手権大会ナショナルコーチ経験のあるコーチを招聘して国内強化合宿を継続的に実施してきている。また一部代表級の選手については個人で韓国に滞在して強豪クラブ道場の中に身を置いてトレーニングを行なっている者がある。

2024 年の世界プムセ選手権大会（中国・香港）においては個人で 3 位・銅メダルが二人、ペアでも 3 位・銅メダル獲得と、一定の成果を上げることができていた。2025 年は権威ある大会としては、ユニバシティゲームス（ドイツ・ラインルール）のプムセ競技に女子 1 名が出場したが 9 位という結果に終わり、得意とするフリースタイルのパフォーマンスに至れなかった。

また、アジアジュニア・カデットのプムセ選手権大会（マレーシア・クチン）に 5 名を派遣したが、最高成績が 5 位に止まり、アジアという限られたエリアでもメダル獲得に至らなかった。分析として挙げられることはアジアが言うまでもなく強豪国がひしめく激戦区ということもあるが、プムセのルール改訂で規定プムセにおいてはサイドバイサイド（二人の選手が同時に演武を開始して採点される）方式に移行しており、正確性も大切ではあるが、それ以上にテンポ、スピード感や突き・受け・蹴りの速さ、インパクトを比較されることとなり、日本選手はややその点で見劣りがすると思われた。メダル獲得は目の前であり、わずかの差であるので、この点はカデット層から継続して強化し、上の世代へ繋げていく必要がある。

来る 2026 年は愛知・アジア競技大会でプムセ競技が実施されるほか、シニア以上の年代でアジアプムセ選手権大会（モンゴル・ウランバートル）や世界プムセ選手権大会（韓国・春川市）が予定されている。予算の中で工夫しながら最善の強化活動を行なっていきたいと考える。

パラ部門においては、今年度より強化指定選手と次世代育成選手の事業を統一し行った。それにより、アスリートパスウェイに沿った一貫性のある強化が行えた。

また、初参加となったアジアパラユースでも銅メダルを獲得するなど 10 代の選手も育ってきている

中長期の強化戦略プランのマイルストーンとして設定していたターゲットアスリートの世界ランキングは

【-58 kg級】 6 位、9 位⇒5 位、7 位

【-63 kg級】 16 位⇒14 位

【-70 kg級】 4 位⇒3 位

となっており目標値の「世界ランキング6位以内2人、15位以内1人」をクリアした。

一方で、予定されていた世界選手権が次年度に延期になるなど、計画通りに進まない面があった。

次年度は、アジアパラ競技大会、世界選手権、グランプリシリーズと重要な大会が続きロス2026パラリンピックでのメダル獲得に向け重要な年となるため、引き続き世界ランキング上位を狙う強化を行っていく。

2. 競技会事業（競技委員会）

1 委員会開催12回

2 実施大会

第19回全日本選手権、第9回全国少年少女選抜選手権大会については、JSCスポーツ振興基金助成（スポーツ団体大会開催助成）を受けて実施した。

第18回全日本ジュニア選手権大会については、一般社団法人さいたまスポーツコミッションスポーツイベント開催助成を受けて実施した。

実施大会一覧

- 第19回全日本選手権大会西日本地区大会（奈良県）
【シニア54名 ジュニア177名】
- 第19回全日本選手権大会東日本地区大会（山梨県）
【シニア50名 ジュニア115名】
- 第18回全日本ジュニア選手権大会（埼玉県）
【キョルギ294名 プムセ51名】
- 第19回全日本学生選手権大会（兵庫県）
【キョルギ77名 新人キョルギ21名 プムセ7名】
- 第9回全日本社会人選手権大会（兵庫県）
【キョルギ33名 プムセ1名】
- 第7回全日本マスターズ選手権大会（兵庫県）
【キョルギ28名 プムセ14名】
- 第19回全日本選手権大会（愛知県）
【キョルギ124名 パラ16名】
- 第18回全日本プムセ選手権大会（神奈川県）
【74名 パラ4名 デフ2名】
- 第4回全日本プムセ新人大会（神奈川県）
【18名】
- 第9回全国少年少女選抜大会（兵庫県）
【キョルギ127名 プムセ27名】

3 総括

令和7年度の競技委員会では、各主催大会の円滑な実施に向け、年間を通じて大会運営体制、競技進行、会場導線、記録管理、審判・医科学委員会との連携、配信・電子防具等の技術運用について継続的に協議を行った。

年度前半は、東西地区大会および全日本ジュニア大会に向けた準備を中心に、試合時間、コート数、スタッフ配置、計量・インスペクション導線、認定証発行、トーナメント運用等について整理を進めた。特に東西地区大会では、試合時間の短縮やインターバルの統一、競技委員の配置など、進行効率を高めるための具体的な運用が決定された。

全日本ジュニア大会では、6コート運営による人員不足、記録確認、電子防具、表彰、ゴミ管理、セコンド対応など、多くの課題が明確になった。一方で、それらを単なる反省に留めず、記録フローの明文化、スタッフの二人一組確認制、コート設営・役割分担・セコンドルール・結果確認の運営手順化など、次年度以降の改善につながる議論が行われた。

また、公式記録確認フローについては、敗者ID回収、勝者線記入、審判確認サイン、写真撮影という手順に統一する方向が確認され、記録ミスや結果確認漏れを防ぐための仕組みづくりが進められた。あわせて、学生・社会人・マスターズ大会、全日本プムセ大会、少年少女選抜大会においても、表彰運用、ランダム計量、プムセ抽選、特別試合、合同級、アップエリア管理など、実務上の課題に対して継続的な改善が図られた。

審判・医科学委員会との連携面では、マウスガードやIVR運用等について、競技委員会、審判委員会、医科学委員会の三者で協議し判断する体制の必要性が確認された。特にIVRの使用判断やインスペクション基準については、個人判断ではなく、関係委員会間で情報共有しながら運用することが重要な課題として整理された。

全日本プムセ選手権では、コート分割や前日抽選・当日発表方式により、概ね良好な運営ができた一方、フリースタイルに対応したマットサイズ、音源の重複、設営スタッフ不足など、次年度へ向けた改善点も確認された。特にマット規格や競技エリアの広さについては、安全性と競技特性を踏まえ、より大きめの面積を確保する方向で整理された。

全日本選手権では、豊橋会場を活用した運営において、横並び4面、ファイナルコールエリア、防具貸出・返却、アップエリア、記録室、表彰、視察・報道対応など、多岐にわたる運営設計が行われた。初会場でありながら、大きなトラブルなく進行でき、記録スペースの隔離、入口管理、導線設計、リザルト表示、ボランティア配置など、今後の国際大会・大規模大会に向けた有効な検証機会となった。

年度後半には、少年少女選抜大会の振り返りを通じて、表彰業務の負担、アップエリアの土足問題、インスペクション未通過でコートへ入る事案、特別試合同意書の運用、タイムスケジュール資料の不一致、セコンド確認など、現場で発生する細かな課題が整理された。これに対し、土足禁止導線の明確化、インスペクションを通らなければコートに入れない仕組み、設営手順の明文化、セコンドカード確認の原則化など、次年度東西地区大会へ反映すべき改善方針が確認された。

総じて、令和 7 年度の競技委員会は、各大会を実施するだけでなく、現場で生じた課題を継続的に検証し、次大会・次年度の運営改善へ反映させる姿勢が強く見られた年度であった。特に、記録管理、導線設計、セコンド登録、表彰運用、IVR・電子防具・配信等の技術運用、スタッフ配置の標準化については、今後の競技会運営の質を高めるための重要な論点として整理された。

今後は、各大会で得られた反省点を競技運営マニュアルや大会要項へ明文化し、主管団体、審判委員会、医科学委員会、学連委員会、技術協力業者等との役割分担をより明確にすることで、安定した大会運営体制の構築が求められる。また、競技委員会に業務が集中しすぎないように、表彰、受付、記録、式典、配信、会場管理などの担当分担を整備し、持続可能な運営体制へ移行していくことが次年度以降の大きな課題である。

3. 審判事業（審判委員会）

1 2025 年度の審判員登録状況

56 名（国際審判員ライセンス保有者 12 名含む）

2 事業の実施

（1）講習会の実施

オンライン講習を 3 回、対面講習を 2 回実施した。

① オンライン審判講習会（キョルギ）（オンライン）

日時：2025/6/8(日) 9:00 - 18:00

講師・スタッフ数：西村紀幸、中野哲史・2 名

参加者数：19 名

実施内容：WT/キョルギルール、計量、インスペクション手順、試験

② オンライン審判講習会（キョルギ）（オンライン）

日時：2025/8/10(日) 9:00 - 18:00

講師・スタッフ数：齋藤智・2 名

参加者数：25 名

実施内容：WT/キョルギルール、計量、インスペクション手順、試験

③ オンライン審判講習会（プムセ）（オンライン）

日時：2025/9/21(日) 9:00 - 18:00

講師・スタッフ数：齋藤 智・1 名

参加者数：25 名

実施内容：WT/プムセルール、スコアリング方法、試験

④ 対面審判講習会（キョルギ）（九州地区/熊本県）

日時：2025/10/12(日) 9:00 - 17:00

場所：熊本県 菊陽町総合体育館
講師・スタッフ数：齋藤 智・1名
参加者数：13名
実施内容：キョルギ審判講習会（実技）

⑤ 対面審判講習会（キョルギ）（関西地区/兵庫県）

日時：2026/1/25(日) 9:00 - 18:00
場所：兵庫県 姫路市環境局 環境ふれあいセンター
講師・スタッフ数：齋藤 智・1名
参加者数：13名
実施内容：キョルギ審判講習会（実技）

(2) 主催大会への審判員派遣

主催競技会及び各種日本代表選考会へ、審判員を派遣した（大会審判員、計量、インスペクション、前日審判トレーニング等）。

①2025/4/6：5名

Rhine-Ruhr 2025 FISU World University Games キョルギ日本代表選考合宿
（味の素ナショナルトレーニングセンター：NTC ウエスト）

②2025/5/25：16名

第19回全日本選手権／第18回全日本ジュニア選手権 西日本地区大会
（奈良県 西部生涯スポーツセンター）

③2025/6/22：17名

第19回全日本選手権／第18回全日本ジュニア選手権 東日本地区大会
（山梨市民総合体育館）

④2025/7/6：5名

3rd Asian Youth Games Bahrain 2025 キョルギ日本代表選考合宿
（味の素ナショナルトレーニングセンター：NTC ウエスト）

⑤2025/7/26～27：31名

JOC ジュニアオリンピックカップ 第18回全日本ジュニア選手権大会
（埼玉県 サイデン化学アリーナ）

⑥2025/9/7：19名

第19回全日本学生選手権・第9回全日本社会人選手権
第7回全日本マスターズ選手権大会
（兵庫県立武道館）

⑦2025/10/25：11名

第19回全日本ブムセ選手権
（第9回全日本パラブムセ，第5回全日本ブムセ新人，第2回全日本デフブムセ）
（シンコースポーツ神奈川県立武道館）

⑧2026/1/18：21名

第 19 回全日本選手権大会
(豊橋市総合体育館)

⑨2026/2/15 : 21 名

第 10 回全国少年少女選抜選手権大会

第 20 回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)プムセ競技日本代表候補最終選考会
(兵庫県立武道館)

(3) 国際大会等への審判員派遣

JOC 国際審判員等養成プログラムの委託金を受けて 3 大会に審判員を派遣した (2/3 助成, 1/3 個人負担)。

JOC 選手強化 NF 事業補助金を受けての事業は今年度実施しなかった。

①2025/4/20～4/25 : WT President' s Cup-Asia (中国・泰安) 西村紀幸

②2025/4/27～5/1 : 13th Asian Club Taekwondo Championships(中国・無錫) 中野哲史

③2025/5/6～5/16 : Fujairah 2025 WT Cadet Championships (UAE・フィジャイラ)

友野壽美

④2025/10/21～10/31 : Wuxi 2025WT Championships (中国・無錫)

友野壽美

(4) その他

協会主催コーチセミナーにおいて、講師を担当した。

日時 : 2025/6/27(金) 19:00 - 20:30 オンライン

講師 門野真・1 名

内容 : キョルギ競技ルール、計量、インスペクション等について

4. 昇段審査事業 (昇段審査委員会)

1 昇段審査の実施

❖ 関東ブロック

日程 : 令和 7 年 12 月 7 日 (日)

場所 : 炫武館本部道場

横浜市中区羽衣町 3-76-3 アクセラ 21 ビル 2F

3 段昇段審査 : 千葉県 2 名、東京都 3 名

2 段 : 2 名

1 段 : 8 名

基本動作セミナー : 18 名

❖ 中部ブロック

日程 : 令和 7 年 12 月 21 日 (日)

場所：蹴道館本部道場

愛知県名古屋市中川区東春田 1 丁目 30

3 段昇段審査：愛知県 1 名

基本動作セミナー：7 名

❖ 関西ブロック

日程：令和 8 年 3 月 1 5 日（日）

場所：菅北福祉会館

大阪市北区池田町 1－5 0

3 段昇段審査：大阪府 2 名

基本動作セミナー：7 名

5. 普及・広報・マーケティング事業（普及戦略委員会）

1 実施した事業

2025 年の次の①～⑥の事業計画に対し、次のような活動を行った。

- ① 人材補充（「普及」「広報」「マーケティング」の各担当人材の確保）
- ② 強化委員会と連携し、リアルタイムでの海外大会結果や国内強化活動情報の共有
- ③ JOC 広報 並びに 他競技 NF との交流（バトミントン協会、陸上連盟、e スポーツ連合、全空連など）
- ④ スポンサー獲得活動（協会理事・関係者の人脈活用を含む）と既存スポンサーフォロー
- ⑤ 体験会の実施（目黒区主催等を含む）
- ⑥ その他、テコンドー普及事業、テコンドー出演依頼等への対応

1) マーケティング活動

既存スポンサーフォローとして、会長・専務理事による会社訪問のほか、次の対応を行った。

YK アクロス様 第 18 回全日本ジュニアテコンドー選手権大会 観戦

城北信用金庫様 第 19 回全日本テコンドー選手権大会 観戦

新規獲得については、スポーツ EXPO へ出展（無償）し、パラテコンドーの紹介・アピールを行い、名刺交換を行った数社に打診するも返信・回答を得られず、その他営業活動を行ったが獲得に至らなかった。

2) 普及活動

A) 目黒区イベント／イベント内容立案～実施対応

実施日 2026 年 2 月 2 1 日（土）

場 所 目黒区中央体育館

イベント名称 2025 年度目黒区イベント「テコンドー体験会」

※参加対象は目黒区在住の小学生

内 容 ・AJTA 派遣選手によるテコンドーデモ（ミット蹴り、キョルギ、ブンセ、キョッパ）

・オリンピック・パラリンピアンとのふれあい＋写真撮影

・体験会実施（ミット蹴り、ヴァーチャルテコンドー）

AJTA 派遣者 ・オリンピック（濱田真由さん、山田美諭選手）

- ・パラリンピアン（工藤俊介選手）
- ・デモ担当（9名）

B) 杉並区イベント

大東文化大学に対応いただいた

- C) 第18回全日本ジュニアテコンドー選手権大会 記念Tシャツ販売
(146枚 ※前年度は105枚)

3) 広報活動

A) KOREAN FESTIVAL／テコンドーデモ対応

実施日 2025年10月12日（日）

場 所 東京都新宿区

内 容 濱田真由さんトークショー／ジュニア選手によるプンセ＋キョルギデモ

B) 2025 デフリンピック テコンドー競技／実況・解説

実施日 2025年11月22日（土）～24日（月）

場 所 中野区立総合体育館

内 容 プンセ／キョルギ競技 決勝戦の実況・解説

C) 第19回全日本テコンドー選手権大会／LIVE 配信解説業務

実施日 2026年1月18日（日）

場 所 豊橋市総合体育館

内 容 キョルギのLIVE 配信時の解説業務

- D) JOC 主催のセミナーを通じ、他競技 NF 担当者と名刺交換を行ったが、当委員会の人員不足もあり、その後の定期的な交流まで至らなかった。

2 総括

従来、対応が不十分であった部門を統合した「普及戦略委員会」を設置したことで、普及・広報・マーケティングの情報を受け入れる体制が整うも、当委員会4名中2名が現役パラ強化指定選手と、対応業務に対してのマンパワー不足は否めない。まず人材確保を急務とする。

6. 医科学関係（医科学委員会）

1 事業の実施

医科学委員会は、2025年度AJTA主催大会において、医師・トレーナーを手配・派遣し、医事運営及び救護対応を実施した。あわせて、各大会の医事報告を行い、傷害発生状況の把握と安全対策に資する情報の整理を進め、今後の傷害予防対策につなげる基盤整備を行った。

選手及び指導者に対する安全対策の一環として、「マウスガード・セルフチェックシート」を作成し、公開した。これにより、選手本人及び指導者が競技現場において活用できる、安全確認の具体的手段を整備した。

脳振盪（疑いを含む）への対応については、協会としての対応方針を整理し、対応マニュアルを作成するとともに、協会としての対応を明文化した。これにより、頭部外傷発生時の対応手順、

医療機関受診、競技復帰確認等の流れを明確化し、協会内で共有すべき安全管理方針を整理することができた。脳振盪対応については、安全対策を個別対応から協会としての運用へと進めることができた点が、本年度の大きな成果であった。

医科学分野からコーチセミナーにおいて情報提供を行い、競技現場における安全管理及び傷害予防に関する啓発を進めた。

パラテコンドー・クラス分け部会では国内クラス分けを実施し、トレーナー部会においても必要な対応及び連携を行った。

東京 2025 デフリンピックのテコンドー競技においては、11 月 22 日から 24 日に医師及びトレーナーを派遣し、救護体制の整備及び運営協力を行った。AJTA 主催大会に加え、同競技においても医事運営を担い、大会現場における安全管理体制の維持に努めた。

2 総括・今後の課題

マウスガード・セルフチェックシートについて、選手、指導者及び関係者へのさらなる周知を進め、実際の大会及び日常練習の場における活用を定着させる必要がある。

脳振盪対応についても、マニュアル及び明文化した協会对応を大会現場で確実に運用できる体制づくりを進める必要がある。加えて、医事報告及び傷害発生状況の把握を継続し、得られた情報をより具体的な予防策や啓発活動に結び付けていくことが求められる。

協会事業に協力する医師・トレーナー等の確保及び育成、ならびに帯同トレーナーを含む支援体制の連携強化は引き続き重要な課題であり、とりわけ女性スタッフ及び関東圏以外に在住するスタッフのリクルート・発掘を継続して進めていく必要がある。

パラテコンドー・クラス分け部会及びトレーナー部会との連携を含め、医科学委員会全体としての支援体制をさらに充実させていく必要がある。

2026 年 10 月に開催されるアジア大会テコンドー、パラテコンドーへの運営に協力し、医療体制を充実させる。

7. アンチ・ドーピング（アンチ・ドーピング委員会）

*アンチドーピング活動に関しては、JSC「スポーツ振興くじ助成」の助成対象事業として実施した。

1 事業の実施

① 第 19 回全日本選手権大会 JADA ドーピング検査 対応

② アンチドーピングセミナー 全 4 回

日時：2025. 9. 14（シニアキョルギ）

2025. 9. 14（ジュニア）

2025. 12. 21（カデット）

2026. 3. 16（パラ）

講師：当協会 JADA 承認 Educator（山本衛）

実施内容 アンチドーピング教育

③ アウトリーチ

全日本ジュニア選手権大会

日 時 2025 年 7 月 27 日

対 象 選手・指導者・保護者

来訪者数 約 59 名

2 総括

アンチ・ドーピングに関する事業は、おおむね例年通り実施した。

研修は、引き続き JADA 承認 Educator 制度の運用のもとこれに基づいて実施した。

アウトリーチ活動については、元オリンピックの濱田真由選手、元パラリンピアンの方田渉子選手（当協会理事）にお越しいただき、ジュニアや保護者とふれあうなど、活気のある活動となった。

上記以外の活動として、強化委員会や医科学委員会と連携し、強化指定選手全員に使用している薬品とサプリメントを報告してもらい、使用に問題はないかのチェックを行っている。アンチ・ドーピング委員会のメンバーで報告のあった薬品やサプリメントを調べ、必要に応じて個別に連絡をとって、違反のリスクを最小限にしようとする試みを行っている。

8. 大学テコンドー（学生委員会）

1 会議の実施 合計 7 回

- 1) 2025 年 5 月 3 日
- 2) 2025 年 6 月 9 日
- 3) 2025 年 7 月 21 日
- 4) 2025 年 8 月 20 日
- 5) 2025 年 9 月 24 日
- 6) 2025 年 12 月 22 日
- 7) 2026 年 2 月 28 日

2 事業の実施

1) 学連ブースの実施

a) 活動実績

- | | | | |
|------|--------------|-------|-----|
| i) | 全日本ジュニア選手権大会 | 参画大学数 | 6 校 |
| ii) | 全日本学生選手権大会 | 参画大学数 | 6 校 |
| iii) | 全日本選手権大会 | 参画大学数 | 7 校 |
| iv) | 全日本少年少女大会 | 参画大学数 | 7 校 |

b) 総括

- i) 会場での活動をして2年目であり、認知度も向上してきている。全日本ジュニア選手権では保護者がブースに寄って、興味を持つ姿が増えており、準備していたカタログが全部消費できた大学が3校ほどあった。
- ii) 学生選手権ではジュニア世代の来場が多くは見込めないことから、参画大学を増やす、そして大学同士の交流を広げる目的でおこなった。活動を知り、次回から参加したいという声をいただいた。

iii)

2) 交流練習会の実施

a) 活動実績

- i) 練習会の実施できず。多くの参加校を募るべく、人的交流を実施した。

b) 総括

- i) 今年度は参加意思を確認したが、会場を抑えられず行うことが無かった。来年度実施のために、会場を調査、申し込みを行った。各大会において、大学生同士の連絡先を共有し、行き来できる準備を進めている。

3) 新人戦の実施

a) 活動実績

- i) 全日本学生選手権大会の試合終了後の時間にて実施した。
- ii) 7大学から合計21名が参加。試合数は17であった。
- iii) 会場も大いに盛り上がり、応援にも熱が入っており、試合後のアンケートでも8割の方が来年も開催を望んでいた。
- iv) 収入について 参加費：315,000円（参加費15,000円×21名＝315,000円）

4) キャプテンミーティング

a) 活動実績

- i) 今年度は実施できなかった。参加校を了承を取るべく、主要大学へ説明を実施した。

b) 総括

- i) いきなり開催すると、反発などのリスクもあると考えているため、今年度は各大学へ意思の確認を行うにとどまった。次年度は、学生選手権等の大会時に対面での実施、またはオンラインでの開催を予定している。

5) 学生選手権のライブ配信で実況解説

a) 活動実績

- i) 実況解説を実施した。

ii) 映像配信は UNIVAS が行い、打ち合わせもスムーズであった。

b) 総括

i) 実施決定が直前になったことにより、人員確保が難しく、実況と解説を分けることが出来なかった。会場にいる観戦者の方からもルールや見所を聞きながら見たら分かりやすく良かったという直接の声も頂いた。来年度は、実況と解説を分けて担当し、また、プンセも実施を早期に計画します。

6) UNIVAS の活用

a) 活動実績

i) UNIVAS 開催のイベント情報などを各大学へ情報提供し、コネクション強化に務めた。

ii) 学生選手権でのライブ配信および配信サポートを実施した。

b) 総括

i) 学生選手権でのコミュニケーションは良好であった。

7) HP でサークル、部活を一覧で掲載

a) 活動実績

i) 資料作成し専務へ説明済。

ii) 実施には至っていない。

b) 総括

i) 協会 HP に掲載されている大学は増えてきている。しかし、大学だけのページを提案しているが、できていない。ターゲットを思案すると大学専用ページがある方が保護者や新たな需要を取り込むための策として、活発化させていく予定である。

ii) テコンドー協会の HP に掲示されているということがエビデンスになり、信頼のある情報となると考えている。

iii) 大学間の交流促進も目的の一つのため、学連サイトの立ち上げを検討しています。

3 全体総括

● 学生新人戦が開催されたことがテコンドー一部の数と人口の増加に一役買ってくれる希望となった。新たに協会の中で試合を開催することが困難な状況の中で、各専門委員会の方々、スタッフのご協力があり、一致団結して新しいことへチャレンジできたことが大きなことだと思います。

● 学生選手権のライブ配信における、実況解説を加えての開催が出来た。テコンドーを見る、支える人を増やす上で、ライブ配信は有効な手段だと思うが、ルールの浸透度合いやすごい技術を凄いと感じてもらえる取組みも重要である。ローコスト実施となり、ま

た、キョルギのみで実況兼務の解説を付けて実施が出来ました。来年は、プムセも付け、また実況解説2名体制でやることを検討します。

- 学連ブースの実施。これは大学がチラシや大学案内などを開示し、ジュニア世代への大学テコンドーサークル・部活の認知度向上活動を目的としている。スカウト目的ではなく、テコンドーを続けたい方の知見や可能性を広げるために今後も継続していきます。大学生が会場で説明をする機会はまだ少ないため、ジュニア選手や保護者が情報を取れるように改善を行っていきます。大学テコンドー部の増加、大学間の交流を促進する取組であると考えているため、継続して実施を検討します。
- 協会 HP の編集に費用がかかることから、無料で学連 HP を創ることを検討します。協会 HP からリンクをして、保護者や大学からも信頼される取組になるよう検討します。

9. アスリート委員会

1 会議の実施について

実施回数 : 3回

第1回目

日時 : 2025年11月20日(木) 20:00~21:00

内容 : ①アスリート委員会の役割整理
②SNS 管理の現状把握
③新任委員へのチュートリアル

第2回目

日時 : 2025年12月11日(木) 20:00~21:00

内容 : ①プムセの国際大会のコーチ帯同とトレーナーについて

第3回目

日時 : 2026年1月20日(木) 20:00~21:00

内容 : ①プムセ選手対象のアンケート実施について
②強化選手のユニフォームについて

2 事業の実施

- ① 実施した事業 : 令和7年度 JOC/NF アスリート委員会合同ミーティングへの参加

主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会 アスリート委員会

日時 : 令和8年2月3日 14:30-16:30

会場 : オンライン

参加者 : 濱田・田中

実施内容 : JOC アスリート委員会の概要や活動の様子の共有、JOC アスリート委員長が IOC 国際アスリートフォーラムへ参加した際の様子や、副委員長が OCA(アジア・オリン

ピック評議会)アスリートフォーラムに参加した際の活動報告が共有された。また、NFアスリート委員会に対して行ったアスリート委員会設置状況調査の結果の共有もなされ、アスリート委員会が設置されていない競技団体がある等、NFアスリート委員会についての現状を知る機会となった。

3 総括

本年度はアスリート委員の退任もあり活動は多くなかったが、11月よりプムセ分野に精通する委員が加入したことで、これまで手薄であったプムセへのアプローチも積極的に行っていきたい。来年度はこれまで実施できていなかったプムセ強化選手を対象とした強化合宿後のアンケートの実施を検討している。

4 課題等

さまざまな場面で事務局や他委員会との連携が重要であることがわかった。そして、場合によってはスピード感のある対応も求められるため、普段から委員会内でコミュニケーションをとり、風通しの良い状態であることが課題である。

10. コンプライアンス関係

※1及び2について、JSC「スポーツ振興くじ助成」の助成対象事業として実施した。

- 1 コンプライアンス相談窓口を運営し、5件の調査案件があった。
委員会は、26回開催された。
- 2 コンプライアンス・インテグリティ研修の実施
インテグリティオフィサーが中心となって実施した。
- 3 処分規程に基づく裁定手続き
裁定委員会に回付された案件はなかったが、「注意」の処分が相当との報告は1件あった。
- 4 大会規律規程に基づく手続き
大会規律委員会の事案はなかった。

11. 総務

本年度の総務委員会では、各都道府県協会の組織運営、加盟・準加盟手続、規程整備、他団体大会への参加方針、未納金対応、ならびにコンプライアンス上の課題について協議を行い、協会全体のガバナンス強化に向けた整理を進めた。

特に、

- ・岡山県における県協会設立準備

- ・宮城県の正会員化に向けた規程整備
- ・滋賀県の未納金対応
- ・北海道の組織再設置に関する検討

など、地域組織の安定的な運営に関わる課題について、具体的な対応方針を確認した。なお、滋賀県の未納金については、昨年度分までの未納額はすでに回収済みであり、今後は当該状況を踏まえたうえで、正会員申請および会員区分の整理について対応を進めていく。

これにより、各都道府県協会が継続的かつ適正に活動できる体制づくりに向け、一定の前進が見られた。

また、連盟との関係において問題の見出された県協会に対しては、加入申込書の文面および組織表記に関するヒアリングを実施した。県協会と各道場との関係性について確認を行い、特定道場への加入を前提とするように受け取られる表現を削除し、組織名を「県テコンドー協会」に統一する方向で整理した。あわせて、入会道場名を記入する欄を設けることで、県協会内における各道場の並列性を担保する方針を確認した。

さらに、暴力事案に関する相談があったが、ヒアリングを行い、総務委員会として直接処分を判断するのではなく、必要に応じてコンプライアンス委員会への正式な申し立てにつなげる方向性を確認した。これにより、倫理上の問題や指導者管理に関する案件についても、適切な所管委員会へ接続し、公平かつ慎重に対応していく必要性が改めて確認された。

他団体大会への参加に関する方針については、一般会員に対しては過度な制限を設けず、競技普及の観点から柔軟に運用する方向性を確認した。

一方で、強化指定選手については、強化活動との整合性を図るため、事前承認を必要とする運用を明確化する方針が示された。今後は、この方針を規程改訂案として整理し、協会内外に分かりやすく周知していく必要がある。

昇段手続に関する疑義対応については、関係部署によるヒアリングを行ったうえで、コンプライアンス委員会へ付託し、必要に応じて裁定委員会で判断を仰ぐ方針が確認された。これにより、個別事案に対しても公平性・透明性を重視し、適正な手続きに基づいて対応する姿勢が明確となった。

今後の課題としては、未納発生時の対応、県協会の消滅・再設置に関する手続き、処分通知の範囲、各都道府県協会の定款・規程の再確認、ならびにコンプライアンス案件の所管整理などについて、標準的なルールを整備していくことが挙げられる。これらを文書化し、協会全体で共有することで、地域ごとの判断のばらつきを防ぎ、より安定した組織運営につなげることが期待される。

総じて、本年度の総務委員会活動は、各地域の個別課題への対応にとどまらず、協会全体の組織基盤を見直し、今後の運営ルールを整備するための重要な取り組みであった。引き続き、各都道府県協会との連携を図りながら、公平性、透明性、継続性のある組織運営体制の確立に努めていく。

1 2. 国際委員会

1) JOC 国際人養成アカデミー 受講（修了）

AJTA としては初の JISLA 参加となったが、JOC の国際戦略、他の NF の国際的な活動 と取組内容を例に国際戦略の重要性、如何に IF や AF でのポジションの獲得していくのか を学ぶ機会となった。

2) 2026 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会への取組

3) デフリンピック（中野区立総合体育館） 11 月17～25日（設営、リハ、競技日、撤収）

WT 管轄外の大会の為、運営に大変な労力を割いたが、アジア大会や、27 年にある、ワールドマスターズに向けた、日本の国際大会の運営経験を積む上で大切な大会だった。

4) 課 題

- ・アジア大会の運営
- ・ワールドマスターズ大会の運営

1 3. ヴァーチャル・テコンドー

1) ヴァーチャル会員制度開始

2) ヴァーチャル・テコンドージャパン オープン大会の開催

プレ大会：2025 年 6 月 1 日 in 兵庫

シリーズⅠ：2025 年 8 月 11 日 in 千葉

シリーズⅡ：2025 年 10 月 11 日 in 安曇野

シリーズⅢ：2025 年 11 月 1 日 in 大阪

シリーズⅣ：2025 年 11 月 30 日 in 阿蘇

シリーズⅤ：2025 年 12 月 6 日 in 埼玉

シリーズⅥ：2025 年 6 月 1 日 in 兵庫

シリーズ FINAL：2025 年 12 月 11 日 in 東京

3) 普及活動:体験会（ヴァーチャル委員会主催以外のものも含む）

- ・城西大学坂戸キャンパス：2025 年 7 月 2 日（埼玉）
- ・東福岡高校学園祭：2025 年 6 月 6 日、7 日（福岡）
- ・城西大学麴町キャンパス：2025 年 12 月 5 日（埼玉）
- ・目黒区体験イベント：2026 年 2 月 21 日（東京）

4) 連携・協力

- ・超人スポーツプロジェクト（イベント共催予定）
- ・聴覚障害者協会（選手派遣）
- ・スターダストプロモーション（選手派遣）
- ・第 82 回国民スポーツ大会（安曇野）の収支計画提出
- ・ミズノ助成金獲得（200 万円）

5) 委員会会議（合計 18 回）

2025年

4月：7日、18日 5月：7日、26日 6月：24日 7月：23日

8月：6日、25日 10月：28日 11月：9日、17日、29日

12月：9日、16日

2026年

1月：28日 2月：8日、18日、25日 3月：23日

< 課 題 >

- ・競技人口（ヴァーチャル会員、シリーズ参加者）が少ない
- ・運営スタッフ不足（2025年度は1コートでしか実施できなかった）
- ・1年目であった今年は、システムダウンなど運営面での問題も生じた（阿蘇中止等）
- ・運営資金不足
- ・体験機会が少ない（常時体験できる設備・施設がない）

14. その他

- （1）2025 コーチセミナーを実施し、延べ 241 名の参加があった。

以上